

令和 7 年度 学校経営計画書（自己評価）

学校番号	59	学校名	静岡県立横須賀高等学校	校長名	河西 伸之
------	----	-----	-------------	-----	-------

本年度の取組(重点目標はゴシック体で記載)

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の効果的な活用 学習歴の保存意識向上 AL（アクティブラーニング）等の学習形態の工夫によるコミュニケーション能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で日常的にICTを活用する職員 75%以上 「ノートやワークシート、端末等を活用し学習の記録をしている」生徒 75% 1 単元 1 回以上 AL を実践 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に ICT 機器を活用している教員（100%） 「ノートやワークシート、端末等を活用し学習の記録をしている」生徒 78.2% 1 単元 1 回以上 AL を実践 100% 	A	<p>よこすか手帳に单元ごとに早めに目標を立てさせ記すことによって主体的に授業に取り組むようになった</p> <ul style="list-style-type: none"> 時刻や授業ルールについては繰り返しプロジェクタで投影し、確認することで入室時間を守ったりマナーを守って授業に取り組んだりする生徒が増えてきた。 ALについては職員間で情報共有が不足しているので、今後共有の場を設けたい。 <p>ICTと手帳をうまく使い分け、生徒にとって効果的に学習を行う環境を職員が考えている</p>
	義務教育段階での学習内容の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの授業、教室環境作りの徹底 充実した朝学習と振り返り可能な教材の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 教室整備、板書、プリント、ICT、提示等の工夫を意識して行っている職員 100% 年度当初に立てた朝学習の目標を達成した生徒 75%以上 	<p>教室整備、板書、プリント、提示等の工夫(例：UD)を意識して行っている教員（100%）</p> <p>自分は、「あさかつ」について目標をもって活動できた。(70.0%) R6 30.6%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 教室前方の黒板にはプリントを掲示しないようにしたりプロジェクターで重要なところを拡大表示したりした。 配信された課題をあさかつ内で行っている生徒が多数いた。また、担任の呼びかけにより取り組むことができる生徒が増えてきた。 ゴミ箱を設置することで、教室内の美化はある程度保つことはできた。 ユニバーサルデザインや集中して学習に取り組む教室環境について特別支援コーディネーターの職員などを中心に全職員に発信して学習環境を整えることができた <p>あさかつではすららを導入し、生徒の個にあった学習を進めることができた。</p>

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	中上位層の学力伸張	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業に出席する＝やる気が出る」と「授業が成り立つ環境作り＝目標作り」さらに「楽しい授業＝わかる授業」の実践 ・BYODによる個別最適な学びの提供 ・スモールステップで目標を持たせ達成感を持たせる学習指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかる」生徒 75%以上 ・1時間の授業や授業のまとまりとしての単元の学びに目標をもって取り組んでいる生徒 75%以上 ・端末を活用して毎日自ら学ぶ時間を確保する生徒 75%以上 ・授業の中で小テスト等実施による短期間・小範囲での学び実施 100% 	<p>自分は本校の授業でやった内容が身につけている（授業が分かると実感している）。(77.3%)</p> <p>自分は毎時間の授業に真面目に取り組んでいる。(87.0%)</p> <p>chromebook など端末を活用して、毎日自ら学ぶ時間を確保している(授業以外でも活用)。(48.2%) R6 49% 1時間の授業や単元の学習の始めに目標(めあて)を提示している教員(100%)</p> <p>授業内で単元テストや小テスト等、短期間・小範囲での学習の確認を行っている教員(83.3%)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が授業に真剣に取り組むことができた。基礎的な内容を中心に、活動を通して理解を深める場面が多く見られた。一方で理解や取り組みの差も見られたため、今後は個に応じた支援や声掛けの工夫が課題である。 ・プリントや小テストを行うことで、基礎力の定着を図り、前向きに学習活動に取り組む生徒が一定数いた ・題材に対して明確な目標を掲げ、スモールステップで授業を展開した。 ・まとめや振り返りの時間を充実させることで、内容をより深く理解させることができた。 ・クロームブックによる家庭学習の推奨ができていない。 ・chromebook の活用で、Google アプリ以外にも選択肢が増えているので、利用事例やフォーマットを共有できるとよい。” <p>授業アンケートを年2回実施。8割近くの生徒が授業内容に肯定的な回答をしている。</p> <p>授業最初に動画10分みさせ問題提示するようにした結果、落ち着いて取り組む生徒が多かった。</p> <p>授業内で小テストを単元ごとに行ったことで生徒からおおむね好評を得た。これからはテスト返却後のまとめ(解説)もして学習習慣の改善の助言を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の取組が良好で早く終わった生徒については教師役となって自らの学びを振り返る機会を設け、更なる理解を深めることができた。 ・課題を難易度別に分け、自分のペースで学習が進められるようにした。

様式第 3 号

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・体調管理意識向上 ・BYOD端末の学習ソフトやアプリの利用率をあげる ・規則正しい生活と清潔感ある身だしなみの意識 ・教育相談の充実による希求力醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と体調の情報共有ができる生徒 75% ・課題等期限内提出生徒 75% ・校内私物整理と身だしなみ意識 75% ・思いや考えを適切に表現するよう心掛ける生徒 100% ・各学期中に、授業担当の全生徒に声かけした教員 100% 	<p>欠席・遅刻等、事前に学校に連絡をしている(保護者にしてもらっている)。(93.1%)</p> <p>課題等を期限内に提出できている。(89.9%)</p> <p>机、ロッカーなど整理整頓ができている。(86.2%)</p> <p>言葉遣いに気を使い、自分の意見を伝えることができている。(90.7%)</p> <p>・<u>下校時に、ロッカー上や机上に荷物を置いて帰らない生徒 100%</u></p> <p>・<u>定期的に身の回りの整理整頓をさせた。</u></p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごと、テストごとに生活面や学習状況について各自振り返りを実施して、多くの生徒が改善点を把握して生活することができた。 ・夏休み明けに遅刻欠席を繰り返す生徒が多数いた。規則正しい生活を継続できるよう、個々の様子を把握し、適切に声掛けを行う。 ・授業の初めに声掛けで、身だしなみを意識する生徒が増えた。注意をされて直す者が大半の中、指導されてもすぐ元の状態へ直してしまう生徒もいた。 ・遅刻・欠席・早退の連絡を9割以上の生徒が徹底することができた。9割近くの生徒が提出期限を意識して行動ができた。 ・基本的な生活習慣を獲得できていないことが体調管理をする力や集中力の低さに繋がっている。適切なスマートフォンの使用や家庭での規則正しい生活習慣の形成を促したい。自己調整しながら目標達成に向け取り組むことが苦手な生徒が多いため、達成状況を視覚化するなど、粘り強く指導する。 ・定期的な面談やSC等を活用することで生徒の悩みやよさを見つけることができた。 ・登校指導をおこない生徒が適切な身だしなみを考える機会を得た。再検査を全体指導でおこなうことで統一した指導となった。
	高い規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・シティズンシップ教育の推進 ・授業規律の確立 ・発達支持的生徒指導の重視 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちの良い返事と笑顔を意識している生徒 75%以上 ・時間とルールへの遵守重視生徒 75% ・相談できる教員がいる生徒 100% 	<p>気持ちのよい挨拶と返事、笑顔を意識している。(88.3%)</p> <p>時間とルールを守り、グッドマナー横高を意識した生活を送れている。(92.3%)</p> <p>自分は学校に相談できる先生がいる。(72.5%)</p> <p>自分は周囲から大切にされていると感じている。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・大半の生徒が時間とルールを守り、規範意識のある生活ができている。 自ら挨拶ができる生徒が少ないので、進路を意識させながらマナーを育てていきたい。 ・周囲の様子に影響を受け、挨拶ができなかったり、身だしなみがだらしくなったりした。”気持ちの良いあいさつを自分か

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
				(84.2%) 生徒の成長の変化に気づき、生徒へ声かけをしている(100%)		らしている生徒は多い。 ・大半の生徒は、落ち着いて学校生活を送れている。引き続き、生徒への細やかな声かけにより、学生の本分としての規律を意識した行動選択ができるようにしていく。 ・こちらから挨拶をすると、挨拶を返す生徒は増えた。自ら挨拶をする生徒も見受けられた。”
	情操の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・図書室活用推進及び読書習慣の確立につなげる指導 ・読む、書く、伝える活動充実 ・清潔感を意識した生活を送る ・生徒の居場所作りについて地域関係組織と協議を開始する 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館を利用した生徒 75% ・図書日より発行年間 3 回以上 ・弁論大会一人一作品製作発表 ・人権を意識した授業と指導実施 100% ・清潔感のある身だしなみの生徒 75% ・学校近隣の空き家の利活用(借用)について地域と協議し、生徒の居場所として活用する 	<p>図書館等(朝読書用本棚、出張本棚など)を利用している。(27.1%) R6_28.3%</p> <p>授業の中で、人権・道徳教育を含んだ学習・指導をしている教員(100%)</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には読書時間が減り、図書館を利用する生徒は減少しているが、読書週間や授業での利用を含めると有効に使用できる ・教室等は、皆が利用すること意識をし美しく使用したい。 ・登校指導で頭髪、服装を定期的に確認するため、清潔感を意識した制服の着こなし等を推奨してきた。日常的に生徒自らが実践できる様にしていく。 ・生徒自身で服装を正すことのできる工夫を行っていきたい。 ・昇降口での生徒ホール作成・施設美化・環境整備など生徒の手によって学校施設等を修理、改修することによって生徒の情操の育成を行った。
ウ	校内安全 (学校保健、学校体育、生徒指導)	<ul style="list-style-type: none"> ・グッドマナー横高の推進 ・発達支持的生徒指導によるいじめや触法行為の未然防止 ・体力向上、健康の保持増進 ・生徒主体の校則等検討会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をする生徒・教職員 100% ・人権に関する職員研修年間 2 回以上 ・生徒への健康管理に関する情報提供件数年間 12 回 ・生徒会活動満足度 75%以上 	<p>他の教員と足並みをそろえて生徒指導にあたっている教員(85.7%)</p> <p>生徒会活動(生徒会行事だけでなく委員会活動も含む)に満足している。(76.1%)</p> <p>見守りカメラを設置後盗難の訴えなどはなくなった。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の安心・安全を確保するためイエローカード等、きめ細やかな生徒指導を行っている。一方で負担感が大きいため、効果的な指導方法については検討していく。 ・授業開始、終了時に挨拶を必ず行い、始業と終業のメリハリを付けることができた。 ・挨拶ができない生徒の個別対応については今後の課題。
	交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車走行マナーの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者、教員による交通安全指導年間 3 回以上実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、教員による交通安全指導年間 4 回実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会、保護者、警察と連携し、交通指導に努めた。交通イエローカード指導については検討する。

様式第 3 号

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		・交通安全意識の醸成	・重大な交通事故0件			・同窓会より、自転車通学者にヘルメット、遠距離自転車通学者に電動アシスト付き自転車の購入補助金制度を設定していただいた。特にヘルメット着用啓発につなげていきたい。
	防災安全	・防災教育推進による地域ぐるみの防災意識高揚 ・生徒の防災意識向上	・学期1回以上防災訓練実施 ・中学生と合同の防災訓練の実施 ・生徒による防災組織の見直し	・中学生と合同の防災訓練の実施(6月実施) ・職員の消防通報訓練・AED使用訓練を実施した。	A	・地域中学生との合同防災訓練は継続して実施する。ただし、生徒の防災組織を部活動単位からHR単位に変更する必要がある。また、中学生が活動できるように分担を見直す必要がある。
	命を大切に する 教育	・人権・道徳教育の推進 ・生徒指導提要に則った生徒指導の充実	・生徒対象の人権・道徳等の講座を複数回開催する ・生徒に対する適切な言葉遣いを意識した職員100%	生徒に対する適切な言葉遣いを意識している(100%)	A	・教員間で生徒への人権意識を尊重した指導を行うように共有できた。 ・指示事項は繰り返し、ゆっくり伝え、丁寧に授業を進めることができた。
	危機管理	・コンプライアンス研修実施 ・非常時の組織体系構築 ・施設設備の安全点検実施 ・地域とともにある避難所拠点としての整備	・教職員の不祥事0件 ・危機管理マニュアルの改訂、周知 ・一斉安全点検年3回以上 ・地域の避難所として防災対策の内容を再検討する	・不祥事根絶研修を職員会議で実施した。 ・長期休業中、参加及びオンデマンド型での研修を受講した教員(92.9%)	A	・災害対策を含めた危機管理マニュアルを最新の様式に合わせて改定した。 ・7月の津波警報発令時には、生徒に4回C-ラーニングを使って情報を流した。4回中1回でも見た生徒の割合は64.4%であった。 ・KYシートや日々の職員の会話で生徒の状況を共有したことによってその日の授業で適切な生徒の個別対応ができ、重大事故防止に努めることができた。
エ	希望する 進路の自 己実現	・職業人講話、インターンシップ等による職業観の醸成 ・PTA、地域人材の面接指導 ・進路内定時期から逆算した1,2年生のキャリアアップにつながる実践の充実	・将来や夢、校内キャリア経験について発表することができる生徒75%以上 ・面接指導等を通じて、PTA、地域人材との連携を深める ・生徒の進路指導満足度75% ・進路関連講話、インターンシップの1,2年生満足度75%	教育活動の中で進路を意識した指導を行っている教員(100%) 本校の進路指導に満足している。(79.8%) 進学説明会やガイダンス等で自分の進路実現に向けて見通しを持てた。(81.8%)	A	進路行事や進路学習を通して進路について情報を得て、自分の進路について複数回考える時間を持てた ・インターンシップにおいて進路意識や目的意識の低い生徒に対しての指導が難しかった。 ・進路を意識した話をしたが「自分ごと」と捉えて聞く生徒は少ない。” R82月のインターンシップの裏で1年生が「キャリアコネク1on1」をおこなう。同じ生徒が夏にも別の企業で行い、職業観の育成に繋げていきたい

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
	多様な生徒の支援及び特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に係る研修充実に係る研修充実 生徒の多様性に配慮した個別支援の充実と社会人基礎力醸成(ケース会議による組織的支援、外部機関、専門家との連携) 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の知識やスキルを支援に活用した職員 75%以上 よこすか手帳の有効活用率 75% 新入生 S S T 講座年間3回以上実施 	<p>特別支援教育の知識やスキルを生徒の支援に役立てている教員(100%)</p> <p>よこすか手帳を活用している。(34.0%) R6_22.5%</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員の研修等を充実し、職員間で共有することで授業や学校教育活動の中で役立てることができた。継続して職員間でのコミュニケーションを密にとり、統一した指導に心掛けたい。 個に応じて声のトーンや言葉の使い方を意識し指導をすることで生徒は理解をすることができた。S S T 指導が今後も必須と感じる。 企業見学等で、生徒手帳に記録をとる姿が見られた。 支援教育の研修を通し、個別に指導を考えることができた。 よこすか手帳の活用方法や場面、獲得させたい能力が生徒と共有されていない。目的と方法を理解させ、継続的に使用させたい。 よこすか手帳のブラッシュアップをして引き続き、生徒が振り返りができるようにした。
オ	地域に根ざした学校	<ul style="list-style-type: none"> 保幼小中との交流 学校HP、SNS、ポスター等による情報発信の強化 部活動等による地域貢献 地域行事や地域連携事業へ協力参加する生徒増加 	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢と積極的に交流した生徒 100% 本校の様子週1回以上発信 一部活動一ボランティア実施 100% 地域行事や地域連携事業への協力参加生徒 50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 異年齢と積極的に交流した生徒 100% (1年保育体験、2年トークフォークダンス、インターシップ) →保育体験 11月 おおさか こども園 おおぶち そよ風こども園 よこすか ぬく森こども園 →就業体験(インターシップ) 55事業所で実施予定 Instagram 約120回投稿(1月上旬) 地域行事や地域連携事業への協力参加生徒(部活動以外) 61.9% 	A	<p>保育体験実習は、3か所のこども園で実施することができた。アンケート結果では、80%の生徒が「主体的に園児と関わった」と答えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> トークフォークダンスを実施し、生徒が意欲をもって参加できていた。 文化展前のボランティア活動に、生徒が参加するきっかけをもらえて良かった。 <p>生徒ホールへの部活動の紹介など校内での生徒活動紹介</p> <p>インスタフォロワー2040 投稿556件(120件投稿) R7 最大ビュー220万再生</p> <p>郷土芸能部 各地域行事に参加</p> <p>R8 年度全国総文祭出場決定</p>
	地域との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材・資源の活用 学校運営協議会との協働 総探とLHR 	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材の講演や行事参加2回以上 地域との協働またはSDGs推 	<p>地域との協働に関わることができた教員(100%)</p> <p>将来(高校卒業後～)は地元へ貢献(就職・祭りに参加等)したいと思っている。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究では、よこすかしろ保存会の方を招聘し、授業づくりに生かすことができた。(家庭コースとの共同授業として年8回程実施)

	取組目標	達成方法(取組手段)	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
		での郷土愛育成によるシティズンシップ教育 ・「行きたい学校作り推進事業」等による“横高レガシー”の確立と新たな学校作りの推進	進にかかわった職員 75% ・将来は地元で地域貢献したいと考える生徒 75%以上 ・地域の文化、産業、人材に関心が持てた生徒 75%	(77.7%) YLDの探究活動で、調査方法や課題の解決についてまとめたり、発表したりすることができた。(80.2%) 部活動や学校行事に積極的に取り組むように生徒を指導している教員(100%)		サトウキビ栽培→よこすかしろ完成。ズミさんにもラジオで試食してもらって好評であった。次年度よこすかしろを使用した調理実習を行う
カ	部活動と学校行事の一層の活性化	・部活動任意加入による新たな放課後の目標設定をし、前向きに取り組む生徒の育成 ・生徒主体の行事運営 ・部活動無所属生徒の自己肯定感充実場面創出	・目標を持って生活した生徒 100% ・学校行事に積極的に参加している生徒 100% ・「自分は大切にされている」生徒 100%	部活動など放課後の活動が充実している(3年生:していたでも可)。(85.0%) 自分は学校行事に積極的に参加している。(88.7%) 自分は周囲から大切にされていると感じている。(84.2%) 生徒の成長の変化に気づき、生徒へ声かけをしている(100%)	A	アンケート結果から生徒の学校行事の満足度は高かったと判断できる。引き続き仲間を大切に協力し合える雰囲気づくりに努める。 ・生徒会を中心に文化祭等、生徒の主体性を育む取り組みにとなるような仕掛けを模索していく。 ・行事や部活動を通じ生徒の成長は感じられた。やらなければいけない環境作りが大切だと感じる。
キ	働き方改革に対する組織的取組	・学年経営の充実 ・教員間の協働性の向上 ・時間外勤務時間削減の徹底 ・支援員採用による業務整理 ・心理的安全性の担保 ・業務整理の推進 ・部活動統廃合と外部指導員等の計画的配置 ・長期休業中の自己研鑽等充実	・学校生活における共通理解と情報共有の機会としての学年集会年間 10 回 ・最終退庁時間午後 8 時遵守する ・部活動所属自由化による新内規完成 ・支援員への業務委託教員 75% ・業務分担整理による協働意識 100% ・職員室の談話室スペースの活用推進を図る ・部活動の外部指導員等の積極的活用 ・長期休業中の補習等を学期内に完了	最終退庁時間 8 時 30 分(週平均)を遵守している教員(83.3%) ・長期休業中、参加及びオンデマンド型での研修を受講した教員(92.9%) 郷土芸能保存会の指導(夜練)を週 2 回から 1 回に減らした。	A	進路指導等を適切にかつ効果的に行うため、長期休業中前に補習等を完了した。 ・実習の授業についてショップごとのマニュアルを作成し、業務の引継ぎ資料とした。 ・職員室で職員同士が声を掛け合い、授業の内容等を話すことで授業内容の進捗を確認したり教授内容の偏りがないようにしたりすることができた。” ・部活動の統廃合を実施する。 ・本校独自の特殊な部活動の顧問が準動したが、4人の顧問の協力によって部活動を継続することができた。